

5 大般若経 599帖 [有形文化財（書跡・典籍）]  
 附 奥書断簡2点、経箱蓋1枚

[所在地] 山辺郡山添村葛尾18番地

[所有者] 観音寺

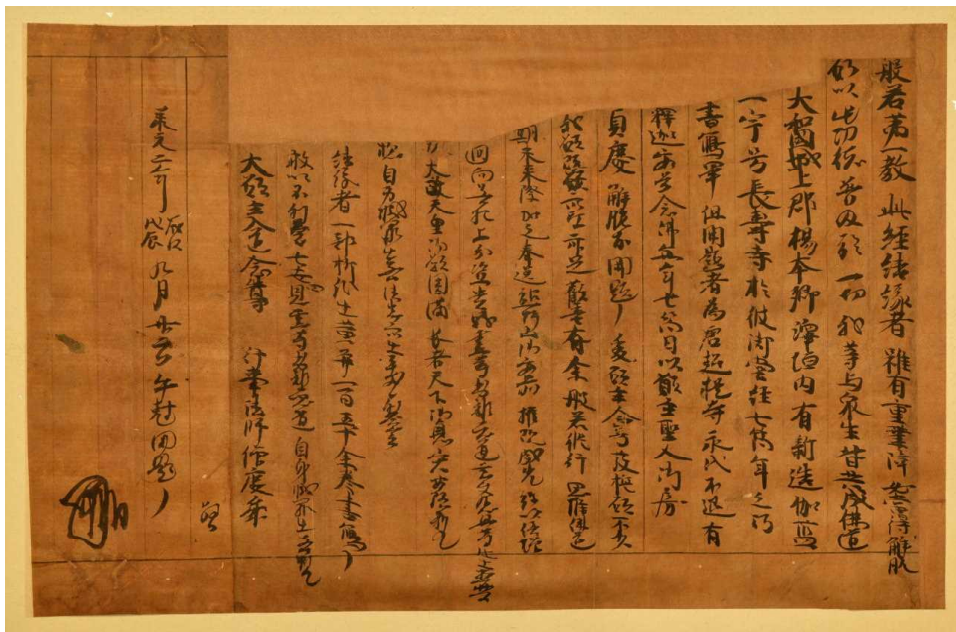
[法量] 縦23.8cm、横7.6cm

[時代] 鎌倉時代／江戸時代

[概要]

三重県境に位置する山添村葛尾の観音寺に伝わる大般若経である。599帖のうち8帖が江戸時代の書写本になる以外は鎌倉時代に書写された一具経で、元久元年（1204）から承元2年（1208）の奥書を有し、念尊を願主として栄円、慶舜、覚阿、琳恩、英暹、源济、宗俊、順円らによって書写され、念尊が建立した長寿寺（天理市柳本町 廃寺）に架蔵されていたことが知られる。

嘉永7年（1854）に卷子装から折本装に改める修理が行われた際に奥書の一部が切断され裏表紙の芯紙に転用されたが、平成元年に行われた奈良県の調査で復元され、本経完成時の供養願文であることが確認された。願文には南都の戒律復興に尽力した解脱房貞慶が本経に結縁し、承元2年に大般若経の解題を講じたことが記され、笠置寺から海住山寺に隠遁した頃の貞慶の動向が窺える新資料として注目される。また経箱の蓋裏の銘に内山とあり、奥書中にも永久寺の子院名がみられることから本経が後に内山永久寺の所蔵となったことが知られる点も貴重である。



奥書断簡